



亀っ子だより

第27号

— 亀崎小学校 校長通信 —

2020年9月30日

お地蔵様を掃除している人に 出会いました

正門を出て、坂を下りていくと桜の木の下にお地蔵様があります。私は、通学してくる子どもたちの安全を見守っていてくれるお地蔵様としてありがたいと思っていました。

ある朝、坂を下りていくと、お地蔵様の花を替え、お地蔵様をていねいに拭いている人に出会いました。地元の人がこうして長年に渡りお地蔵様を大切にしてきたのだと思いました。お地蔵様をきれいにしてくださっている人、もお地蔵さまと同じくらいありがたいと思いました。

1年生の虫とりに参加

2時間目に1年生が虫とりをしていました。私も参加していたのですが、一匹も取れなかった子がいたようで、その子らは先生と一緒に大放課も虫とりをしました。私も引き続き体育館前の草むらで虫とりに参加しました。しかし、虫はすばしっこく、素手ではなかなか捕まえることができませんでした。すると、鬼ごっこをしていた4年生や5年生がどんどん虫とりに参加して、1年生の虫かごに虫を入れてくれました。寂しそうにしていた1年生の表情が、笑顔に変わりました。優しいお兄さんやお姉さんたちだと感心しました。きっと、とってもらった1年生の子どもたちも、優しいお兄さんやお姉さんに成長してくれることと思います。

クラブの時間に

月曜日の5時間目が終わり、下校する子どもたちを見送って学校へ帰ってくると、竹とんぼクラブの子どもたちが、図工室の前で竹とんぼを飛ばしていました。4年生以上の男の子と女の子が一生懸命に飛ばしていたので、何かあるといけないと思ひ様子を見ていました。勢いよく飛ばせる子もいれば、なかなかうまく飛ばせない子、木に引っかかってしまった竹とんぼを一生懸命に取っている子もいました。そのような中、少し元気のない男の子がいました。竹とんぼの軸が折れてしまって、飛ばせなくなっていました。男の子がその竹とんぼを見せに来たので、「折れちゃったね。誰かと一緒にやらせてもらおう」と声を掛けました。すると、6年生の男の子が「おいで」とクラブ担当の先生の所へ連れて行って「先生、折れてしまったので違う竹とんぼを貸してください」と言って竹とんぼを先生から受け取ると、男の子に渡しました。男の子は、元気に竹とんぼを飛ばし始めました。6年生の男の子は私よりもずっと機転が利くと感心するとともに、自分の行動を反省しました。

表彰の記録

- 第2回モトムカップ
女子の部 第2位
足立 瑚々 (6年)
竹内 叶望 (5年)



♣ 子育てアラカルト ♣

[笑う効用]

〈笑うとこんなにいいことが・・・〉

- ① 楽しくなる
- ② それが人に伝わる
- ③ 健康になる
- ④ 元気になり、それだけ自分の心が豊かになる
- ⑤ 人間関係がよくなる

明るい家庭は誰がつくるか・・・少なくとも子どもに責任はない。親が率先して実行していけば雰囲気を変えることができる。

ある医者のお話では「笑顔をつくるためには顔の筋肉を16個、悲しみを表現するためには60個以上の筋肉を動かす」という。動かす筋肉が少ない分、笑顔はつくりやすいのだろう。できたら明るく、楽しくすごそうではないか。

「明るかろうと暗かろうと、大きなお世話だ。別に犯罪になるわけでもないし…。」そう考えている人がいるかもしれない。ところがどっこい、ちゃんと犯罪になる町があるのだ。

『笑顔条例』をもつ市がアメリカにあって、不機嫌な顔をしていると逮捕されてしまう。ポテトで有名なアイダホ州ポカテロ市の条例第1, 100号だ。

第1条 ポカテロ市民には、しかめっ面をし、眉間にシワを寄せ、あるいは人をにらんで、怖い、不機嫌そう、落ち込んでいるといった印象を与える人が少なくなかった。これでは、フレンドリーな市でありたいと願うポカテロの評判は落ちるばかりだから、今後このような表情は違法なものとし、幸せに輝く笑顔をつくってもらうこととする。

第2条 この計画の実行にあたり、市民が条例に慣れ、また、笑う習慣を身につけるために、8月9日から14日までを『笑顔週間』とする。

第3条 この条例の施行のため、笑顔チェック署を新設し、笑わないものを逮捕する権限をもつ特別官を置く。

第4条 条例に違反して有罪になったものは、最寄りの笑顔チェック署で笑顔づくりの講習を受けなければならない。講習の回数は、違反程度の軽重によるものとする。

1948年にこの条例ができたそうだが、ジョークだから、実際に笑わないからといって逮捕された市民は、まだいないそうだ。思うに、こんな条例が可決されるような市だから、きっと市民もジョークを解する、明るい人が多いことだろう。

【心に刻む言葉 1】 人は楽しいから笑うんじゃない。笑うから楽しくなるんだ。

【心に刻む言葉 2】 陽気は美德 陰気は罪悪

(ある教育者のひとり言 より)

ご家庭に笑顔が満ちあふれる、楽しい10月になることを心から願っています。